

「心に残る文化財子ども塾」活動の様子～松江市立乃木小学校～

1. 活動の概要

令和5年6月19日（月）、松江市立乃木小学校で「心に残る文化財子ども塾」を開催しました。活動内容は田和山遺跡の見学です。田和山遺跡は、山の頂上を囲むように3重の環濠がめぐり、その周囲に集落が広がる弥生時代前期から中期（約2,200～2,000年前）にかけての遺跡です。遺跡は国の史跡、出土品は島根県の指定品になっています。見学には、松江市埋蔵文化財調査課にも協力をいただきました。

見学は午前中2クラス、午後3クラスで行い、それぞれ約1時間の見学でした。解説ポイントを5つ設け、クラスごとにコースを分けて見学しました。出土品の見学では、遺跡から出土した土器や石器の復元品を使って解説を行い、戦いやマツリがあった可能性を考えました。遺跡の見学では、復元された竪穴住居や掘立柱建物を見学し、大きさや遺跡の中でも建物に違いがあることを体験しました。また、頂上部では多くの建物がないにもかかわらず、3重もの環濠で嚴重に囲む必要があった理由などを考えました。

見学を通して、弥生時代のイメージや2,000年も前に実際に人が暮らしていた様子を想像してもらうことができました。また、地元に貴重な遺跡があることを再認識してもらうことができましたと思います。

2. 活動の様子



出土品について解説



竪穴住居は以外と快適！？



環濠は人の身長より深い！



熱心にメモをとりながらの見学

3. 子ども塾を終えて

① 児童の皆さんから

- ・西側と北側の住居の違いが知れておもしろかった。
- ・住居の中に入って以外と広かった。涼しかった。
- ・人の手で環濠を掘っていたことに驚いた。
- ・昔の武器を触ったら以外と重かった。

② 担任の先生から

- ・コンパクトに内容をまとめて話をしていただいたので、子どもたちも間延びすることなく参加できた。
- ・実際に現場で復元された住居、道具を見せてもらえたことで、子どもたちのイメージが膨らんだ。また、説明がとても分かりやすく、なぜだろう？を解決してもらえて納得した様子だった。帰ってからの学習で弥生時代を扱ったが、イメージをもちながら話を聞いていた。
- ・十分な時間がとれず、難しいとは思いますが、子どもたちが質問できる時間があるとよいと思った。

③ 埋文センターから

- ・普段から存在は知っていたと思うが、改めて見学すると新たな発見が多くあったようでよかった。
- ・竪穴建物の中に入ったり、出土品に触れるなど、実際に五感で体験してもらうことに意味があると感じた。
- ・田和山遺跡は地域が誇る貴重な遺跡なので、田和山遺跡のことを知り、みんなで守って行ってほしい。